

福岡県からブラジルに移住した人々の子弟で、県費で福岡に留学経験を持つ211人が1日、現地で「県費留学生OB会」を設立した。県は世代交代が進むブラジル県人会の活性化とともに、経済発展が著しいブラジルとの新たなビジネスチャンスにもつながるとみて、期待を寄せている。

(桜木剛志)

「県人会の中核組織として活動し、経済分野など新たな交流の懸け橋になりたい」。1日夕、サンパウロ市で開かれたOB会の設立記念式典。会長に就任した日系3世の物流会社社長、福永ミルトンさん(49)が日本語で宣言すると、約130人の出席者から拍手がわき起こった。式典に招かれ

ブラジルに福岡留学OB会

次世代交流の懸け橋に

た小川洋知事は「心強い応援として大いに期待しま



留学生OB会のメンバー(2列目から奥)と福岡県からの訪問団(ブラジル・サンパウロ市)＝県提供

世代交代進む県人会活性化

す」と祝辞を贈った。

移住者とその子孫でつくるブラジル県人会は1930年に設立された。5月現在の会員数は1121人で、海外の県人会では最大規模。県は交流の懸け橋となる人材育成を目的に、海外県人会の子弟を対象に1年間の短期留学を支援しており、ブラジルからは今年度までに211人を県内の大学、短大で受け入れた。

OBたちは現在、裁判官や大学教授、医師、企業経営者などとして活躍。ブラジルの発展と日系人の地位確立に貢献しているとい

う。県人会では世代交代が進み、日本語や日本の伝統、文化を知らない日系人が増加している。こうした状況で結成されたOB会に、県は福岡との絆を強くし、ネットワークを生かした交流の拡大という役割を期待している。

ブラジルは2014年にはサッカー・ワールドカップ、16年には五輪の開催地に決まり、経済も好調。県はこうした情勢も好機ととらえ、「これまでの文化、教育的な交流を主にした枠組みを超え、新たなビジネス展開につなげたい」としている。